



学校教育目標 『よく見つけ、よく考え、健康で実行力のある生徒の育成』  
令和8年度テーマ 『自ら考え、周囲と協同して未来を拓くことができる生徒の育成』

校訓  
知性 創造 練磨 友愛

## 入学式・始業式から一週間が過ぎました。

知性 創造  
練磨 友愛

入学式と始業式から一週間が過ぎた今、それぞれの「式辞」で述べた、校訓の四つの言葉に込めた私の願いを改めてお伝えします。みなさんの心に留めておいてほしいと願っています。

### 〔入学式〕1年生へ

一つめは「知性」です。

ICT機器の活用が進み、SNSや生成AIといった便利な技術が当たり前のものとなりました。しかし、デジタル社会には「フェイク」と呼ばれる誤った情報もたくさんあります。

だからこそ、単に知識を覚えたり、気軽に操作したりするのではなく、社会にある情報をよく見極め、何が正しいのかを判断する力をつけていかなければいけません。それが、未来を拓くための確かな「知性」となります。



二つめは「創造」です。

学校生活の大部分は「授業」という学習の時間です。授業では、皆さんがじっくりと課題に向き合い、深く考え、そして発表する場をつくっていきます。皆さんがこれから過ごす社会は、正解のない問いに立ち向かうことが多くなります。

時には難しいと感じる問いもありますが、どんなことにも果敢に挑戦してほしいと願います。たとえ上手くいかなかったとしても、それは成長を高めるための大切な「タネ」になります。自ら問いを立て、失敗を恐れずに挑戦し、仲間と共に様々なアイデアを出し合しましょう。その繰り返しが、新たな歴史を創り出すエネルギーとなります。

### 〔始業式〕2,3年生へ

一つめは「知性」です。

学年が上がるにつれ、学習内容もだんだんと難しくなっていきます。タブレット端末や生成AIなど、便利なものが身近にある今だからこそ、「その情報は本当に正しいのかな?」「自分ならどう考えるだろう?」と立ち止まって考えることが大切になります。

誰かの意見やネットの情報をそのまま受け取るのではなく、自分なりに考え、判断する。その積み重ねが「知性」を育てていきます。

二つめは「創造」です。

授業や行事、委員会活動、部活動など、学校生活には、皆さん自身が考え、工夫する場面がたくさんあります。答えが一つではない問いに向き合うことも増えていきます。

「どうしたら、もっと良くなるかな」「自分たちにできることは何だろう」

そんな問いを、仲間と話し合いながら形にしていってほしいと願います。

うまくいかないことがあっても大丈夫です。その経験は、必ず次への「タネ」になります。

皆さんの挑戦が、深野中学校の新しい一歩をつくってほしいと願います。



三つめは「練磨」です。

深野中学校は、3つの小学校から集まります。これまでよりも多くの仲間と過ごします。そんな時に大切になるのが、誰かのために動こうとする「心」です。誰かに何かをお願いされたり、自ら何かに気づいたりするときに、素早く、主体的に行動してみてください。

その一つひとつを繰り返すことで、皆さんの知性と品格は、より一層たくましく磨かれ、素敵な大人になっていきます。

三年間の中学校生活で、仲間と切磋琢磨して自分を磨き上げ、輝ける56期生を作りたいってほしいと願います。

四つめは「友愛」です。

深野中学校は、生徒の皆さんが「安心して学び合える学校づくり」を目指しています。

学校生活では、悩むことや立ち止まりたくなるときがあります。うまくいかないことの方が多いかもしれません。

そんな時こそ、互いに「大丈夫やで」「みんながおるで」と声を掛け合い、励まし合う関係をつくってほしいと願います。その前向きな声掛けが、安心して過ごせる学校をつくっていくことになります。

「居心地の良い学年やクラスをつくっていくために、私には何ができるか?」。この問いを常に持ち、仲間の声を聴き、互いに認め合い、支え合える関係を創り上げてほしいと願います。

三つめは「錬磨」です。

学年が上がると、人との関わり方や求められる役割も変わってきます。そんなときに大切にしてほしいのが、フットワークです。

「自分から動いてみよう」「誰かの力になっていこう」という行動力です。

困っている人に声をかける。やるべきことを引き受ける。場の様子を見て、次に何をすればよいか考えること。

ひとつひとつの小さな行動を大切に、仲間と切磋琢磨して自分を磨き上げ、輝ける深中生になってほしいと願います。



四つめは「友愛」です。

深野中学校は、「安心して学び合える学校」でありたいと願っています。

学校生活では、うまくいかないことや、悩んでしまうこともあると思います。

特に上級学年になるほど、責任を感じる場面も増えるかもしれません。そんなとき、みんなが寄り添い合える関係で「大丈夫やで」「一緒にやろう」と声をかけてほしいと願います。

2・3年生の皆さんには、後輩が安心して過ごせる雰囲気をつくっていく存在でいてほしいと思います。

## ～UPEPONI～とは、

学校だより『深中だより』にサブタイトル「～UPEPONI(ウペポーニ)～」をつけました。

『深中だより』とは別に、校長は先生方向けの通信「UPEPO(ウペポ)」を出しています。

「UPEPO」とは、東アフリカ地域(ケニアやタンザニア)で使われているスワヒリ語で、「風」という意味があります。「UPEPONI」は「UPEPO」の複数形で、「たくさんの風」という意味になります。

「UPEPO」には校長の思いや願いを「風」に乗せて先生方に届け、さらに先生方にはそれぞれの「風」を学校中のいろいろなところに吹かせてほしいという願いを込めました。

そして、「UPEPONI」には、先生だけでなく生徒の皆さんからも「たくさんの素敵な風」を吹かせてほしいと願いを込めました。私たち一人ひとりの行動から、深中の未来を創りたいと願っています。